

## 特別講演 1

### 「高齢者薬物療法の現状・課題と漢方薬の位置づけ」

東北大学病院 総合地域医療教育支援部

漢方内科准教授・副部長・副科長

高山 真 先生

超高齢社会を迎えた日本では、薬剤の適正使用が診療において重要な位置を占めている。2015年に日本老年医学会より発刊された「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」ではいくつかの漢方薬についてその特徴や使用方法について記載された。

- ①抑肝散は認知症に伴う行動・心理症状のうち易怒、幻覚、妄想、昼夜逆転、興奮、暴言、暴力、徘徊に有効。
- ②半夏厚朴湯は誤嚥性肺炎の既往を持つ患者における嚥下反射、咳反射を改善させ肺炎発症の抑制に有効。
- ③大建中湯は脳卒中後遺症における機能性便秘に対して有効であり腹部術後早期の腸管蠕動運動促進に有効。
- ④麻子仁丸は高齢者の便秘に有効。
- ⑤補中益気湯は慢性閉塞性肺疾患における自覚症状、炎症指標及び栄養状態の改善に有効。

その他、注意を払うべき生薬として甘草、麻黄、附子、黄芩、山梔子なども挙げられている。

講演では本ガイドラインの作成経緯、上記の詳細および関連処方を使い分けについて紹介する。